

中部地域における広報協力の推進と連携について

発題：野田真里（連携推進委員）
（特活）名古屋 NGO センター 理事

【背景】

国際協力における理解の促進は首都圏だけでなく、地域においても重要な課題である。これまで NGO と外務省はより広範な国際協力への市民の参加促進という共通の目的のため、様々な連携事業を行い、近年では本委員会の下に、NGO 外務省広報連携タスクフォースを設置し、パンフレット『国際協力と NGO』の発刊等、着実に成果を上げてきた。

多くの市民が直接参加する国際協力イベントとしては、東京では『グローバル・フェスタ』が、関西では、『ワン・ワールド・フェスティバル』が開催されている。各イベントでは MOFA との連携企画などが実施されるとともに、資金的なサポートも行われている*。

中部地域でも、『ワールド・コラボ・フェスタ』が実施され、来場者は、毎年 5 万人を超える（07 年度は、10 月 27 日、28 日に実施、来場者数は 56,000 人）。08 年度からは、（特活）名古屋 NGO センターが、主催者団体に加わり、より、国際協力における市民参加を全面に出した企画などが実施される予定であるが、資金的には、非常に厳しい状況にある。

地域での国際協力への理解推進は極めて重要な課題である。これまで東京や関西圏においてなされてきた国際協力イベントにおける成果と課題を踏まえつつ、今後は、中部圏をはじめとする各地域においても NGO と外務省が連携していくことが望まれる。

*06 年度『ワン・ワールド・フェスティバル』実績では、4 の企画を合同で実施し、約 190 万円のサポートがある[事務局団体である（特活）関西国際交流団体協議会に聞き取り]

【論点】

上記のような状況を踏まえ、以下の点について議論をしたい。

- 1) 東京、関西に加え、中部地域をはじめとする他地域における、国際協力イベントを通じてのより広範な市民の国際協力への参加促進のための連携の可能性について（下記参照）。
- 2) すでに連携がなされている東京、関西における国際協力イベントの成果と課題について。

記

2008 年度『ワールド・コラボ・フェスタ』開催概要（案）

日時：2008 年 10 月 25・26 日 10:00－18:00

場所：オアシス 21「銀河の広場」および久屋大通り公園「もちの木広場」

（名古屋市中区栄）

主催：（財）愛知県国際交流協会、（財）名古屋国際センター、JICA 中部

（特活）名古屋 NGO センター

想定来場者数：60000 人

以上